

竹下復興大臣ぶら下がり会見録

(平成27年5月13日(水) 15:50～15:53 於)千葉県浦安市)

1. 質疑応答

(問) 今日の視察の感想をお聞かせください。

(答) 世界で類を見ないというか、あれだけ住宅が建っているところの液状化、どう対策していくのかというのは非常に大きな課題だったわけですが、今日視察させていただきまして、まだまだいっぱい問題はあるけれども、これはやり遂げなきゃいかんという思いを強くしたところであります。

(問) 浦安市が進めている市街地液状化対策ですが、当初今年度末までの工事の完了という計画だったと思うんですが、他方で一つの地区も本格的な工事の着工というのが始まっていない状況で、今後スケジュール感がかなりタイトになってくることが予測されますが、こうした状況に対する復興庁としての受けとめと、今後何らかの支援を御検討されていくお考えがあるのかお聞かせください。

(答) 市街地の液状化対策というのは、一つは民間住宅への対策をあわせてやらなければなりませんので、地域の合意、民間の個人負担をしていただきますので、その合意をとるという作業は、これは並大抵のことではないなというのは前々から予想しておりましたけれども、今日も市長からいろいろ話を聞いて、それでも進んでいるほうですけれども、大変だなという実感を持ちました。

それからもう一つは工法でして、これが一番いいという工法がなかなか見つからなくて、今日まで苦労してこられたといういきさつもあって時間もかかっているというふうに伺っておりますし、それは正直言ってそれはそうだろうと、我々も専門家に来てもらって話を聞いたことがあるんですが、液状化ってそう簡単に対応できるものじゃないものですから、その意味で工期がなかなか思うように捗らないというのはやむを得ない場面はある。ただ、この事業は復興の基幹的な事業でありますので、時間が多少ずれようが、我々はこれまでと同じように10分の10、全て国費で対応させていただくという基本的な姿勢は維持していきたいと思っております。

(問) それはつまり、今年度末までに工事が完了しなくても10分の10で復興交付金を執行するということですか。

(答) そういうことです。

(以 上)